

久保 義 弘

自然科学研究機構・生理学研究所
神経機能素子研究部門・教授



平成15年12月に、生理学第二講座を4年弱担当しました東京医科歯科大学から、生理学研究所に異動しました。着任部門は、江橋節郎先生、小幡邦彦先生が研究室の方々と共に築いて来られました神経化学研究部門で、平成16年4月に神経機能素子研究部門と改称いたしました。伝統の重みをかみしめつつ、さらなる発展を目指したいと思えます。

僕は、これまで一貫して、興奮性細胞とその機能素子についての細胞・分子レベルでの研究に取り組んできました。今後、これらの研究の直接の延長として、イオンチャネル・受容体・Gタンパク質等の機能素子群の持つ精妙な分子機能のメカニズムと動的構造機能連関についての研究を、研究室の中心テーマとして進めていこうと考えています。さらにまた、この節目をきっかけに、各素子の持つ特性の脳神経系における機能的意義を知るための個体レベルでの研究にも、専門とされる方のご協力をいただきながら取り組んでいきたいと思えます。このような願いを込めて、新部門名を、神経機能素子、Division of Biophysics and Neurobiologyとさせていただきました。

生理研に来て、研究とは別種の喜びだった学部教育がなくなったことには一抹の寂しさを感じていますが、研究することに特化して作られた充実した環境に身を置けることに感謝しつつはりきって過ごしています。たとえ非常に難しそうなことであっても、自分自身が本気で興味を持てる課題にがっぷり取り組んで目的を達成するんだという思いが、ビシビシみなぎるのが自分でも不思議な

くらいです。

生理研には5年一貫性の大学院があることもあり、研究者教育の機会に恵まれています。控えめだった研究室のメンバーが次第に成長し、自分の考えを滔々と主張するようになっていくのを見るのはとても幸せなことです。自分自身が一研究者として仕事をすると共に、研究室の担当者として、メンバーが快適に過ごし自然に成長していくことができる場になりたいと思えます。それが、これまでお世話になった方々に対するご恩返しであり、自分がなすべきことだと思っています。

早いもので、大学院を卒業してからもう15年が過ぎてしまいました。自分に残された創造的時間が決して長くはないことを自覚し、どこか気楽さを持ちつつも、魂を込めて、ひとつひとつの季節を燃え尽きるように生きていきたいと思う今日この頃です。

皆様、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(email : ykubo@nips.ac.jp ; HP : <http://www.nips.ac.jp/biophys>)

略歴

- 1985 東大・医学部医学科卒業
- 1989 東大・院医・博士修了(高橋國太郎教授)
- 1989 東京都神経研・神経生理・研究員
- 91-93, UCSF・ポスドク(Lily Jan教授)
- 2000 東京医歯大・院・機能協関システム医学・教授
- 2003 生理学研究所・教授